

## 質 疑

## 令和6年度調査の調査票案について

○永瀬伸子部会長（お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授）

ただいまの説明について何かご質問などありましたら、どうぞ。

いかがでしょうか。

それでは、特に質問がないようなので最初に私のほうから、ちょっと事務局に質問させていただきます。

これから高齢化が進む中で在宅医療、本当に大事だと思うんですけども、今回、医療機関調査票では、例年きいてた患者数はきいていないんですけど、NDBデータとマッチすることで患者数を見る能够があるということをお伺いしたんですが、

そうしますと、在宅医療といいますと、例えば、診療所の中で一部、時々、来ている、外来しながらいらっしゃるという方と、ほとんど専門に行ってるとか、いろんな種類があると思うんですけども、

在宅医療がどんなふうに、どんな状況なのかってというのをですね、そういう診療機関の特徴別に集計するには、ただこれを集計するだけではなくって、そういうふうに、その患者数の中に占める訪問の割合などで見ていく必要もあると思うのですが、

その辺は、でき、そういう形でコネクトすれば、マッチングさせればできると思ってよろしいのでしょうか。お伺いさせていただきます。

○厚労省保険局保険医療企画調査室・米田隆史室長

はい。ご質問ありがとうございます。今回、個々の医療機関の状況と、その算定回数をクロスして、IDですね、結びつけて調査を行えることとなっておりまして、この在宅医療の医療機関票で、そのようにしておりますので、今、部会長おっしゃるような分析が可能になると考えております。

○永瀬伸子部会長（お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授）

ありがとうございます。すごく負担の軽減にもなりますし、また、そういった視点ですね、マッチさせた上での結果を報告していただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、ほかはいかがでございますでしょうか。

よろしいでしょうか。わかりました。大変貴重な調査でございますので、過去の何年か分を、いつか合わせて分析するというのも私は意義深いのではないかというふうに思いますけれども。

それでは、特にほかには意見がないようでございますので、本件につきましては、診療報酬改定結果検証部会として了承されたものとして、総会に報告することにしたいと思います。

では、本日の議題は以上です。次の日程につきましては、追って事務局より連絡いたします。

本日の診療報酬改定結果検証部会はこれにて閉会いたします。どうもありがとうございました。

（2分後に合同部会へ）

---